

拝啓 今年も早や8月末となりました。いつもエンカウンターをお読み頂きありがとうございます。今近所の緑道では、暑い盛りに、百日紅の花が天に向かって、赤い花を咲かせています。

今回は新渡戸稲造先生の『人生雑感』の5回目「修養より宗教へ」という講演録から引用です。(2) のところに次のようにあります。

「学生時代においてこの真実の友情を養うことが至極適当であるので、かくのごとき会合によって、友情が結ばれ、また暖められればはなはだ良いことである。」という文章がありますが、私は、新渡戸先生や南原先生の書いたものから、友情を非常に大切に考えるようになりました。毎日世話になるのは家族とか会社の同僚ですが、友人には、非日常的な大きな方向転換の時、本当に困ったときなど、ずいぶん助けてもらったものです。

11月3日の南原シンポジウムで、私は、「憲法9条と安全保障」という題で、報告をしますが、8月17日(木)、その内容について、軽井沢の樋口陽一先生の別荘を訪ね、ご意見を聞いてきました。おおむね、私の意見でもよかったようで、安心しました。

8月18-19日と、長野県穂高町の鳥居山荘で開かれる安曇野夏の集いに出席しました。そこで毎年日野原重明先生にお会いしていたのですが、今年は19日夜と20日朝、日野原重明先生を偲ぶ会が開かれました。私も、『今伝えたい大切なこと』という本(2008年、NHK出版)から感銘を受けた箇所を紹介する形で、感話を述べました。要点は、大切なことは目に見えないことであること、自分の持っている時間が「いのち」であること、「時」には、ギリシャ語で言うカイロス(価値観が変わるような決定的な時間)とクロノス(普段流れている時間)があること、いまを生きることを再確認した方が良いこと、戦争放棄をうたった現行憲法の改正を阻止すること、最後にタゴールの詩を紹介し、「今日、わたしのずだぶくろはからっぽだ——与えるすべてを与えつくした」とありましたが、日野原先生の生涯のように思いました。

8月18日(金)、佐生健光さんが亡くなられ、8月24日、家族・親族だけで開かれた家族葬で司式の役を務めました。佐生さんから、頼まれていたことでしたが、私にとって、お葬式で牧師の役を務めたのは初めてでした。10人くらいの少人数のお葬式でしたが、良いお葬式でした。9月中旬に、改めて、大勢の人に案内状を出すお別れの会を開かれるそうです。

まだ暑い日が続きますが、どうぞお身体お大切にお過ごしください。

敬具

山口周三

平成29年8月25日

エンカウターの読者各位